

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 31 日現在

機関番号：14501

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2016

課題番号：26570019

研究課題名(和文) ジェンダー・エスニシティ・多世代共生に着目した震災復興と減災方策に関する研究

研究課題名(英文) How to Disaster reduction and Reconstruction of community view point of gender, ethnicity, generation

研究代表者

朴木 佳緒留 (Honoki, Kaoru)

神戸大学・人間発達環境学研究科・名誉教授

研究者番号：60106010

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：津波被災地である岩手県沿岸部の一地点を定点として、被災者の生活実情を調査し、それに基づいた減災方策を検討した。被災者の経済格差は復興の要因となるだけでなく、「新たな分断」が派生すること、中堅世代は生活復興のため職業中心の生活を送り、そのことが地域の諸活動への参加を難しくしていること、男性より女性の方が新たな生活に向かいやすいこと、「分断」を乗り越えるためにはさまざまなイベントや小集団による活動が有効であることが参与観察、アンケート調査を通して分かった。地域の教会がフィリピンの女性たちの仲間作りの役を果たすなど、「分断」だけではなく「共同」も生み出されていることが分かった。

研究成果の概要(英文)： This project focused on one location in the coastal area of Iwate Prefecture damaged by the 2011 earthquake and tsunami. A survey on the living situation of residents affected by the tsunami was conducted and, on the basis of the results, ways to reduce risk in the future were considered. The results of the survey and participatory observation showed that economic differences among the affected people lead to "new divisions" in society; middle-aged people tend to be primarily focused on work and engaged in rebuilding their lives, making participation in community activities difficult; men have less difficulty than women in starting new lives; and various events and small group activities are helpful for overcoming the new "divisions." In addition, the project revealed that for Filipina women, local churches have played an important role in helping them to make friends and to not only overcome "divisions" but also to work in cooperation with others in the community.

研究分野：教育学

キーワード：震災復興支援 ジェンダー エスニシティ 生活実態調査

1. 研究開始当初の背景

(1) ジェンダー視点からの震災復興に関わる研究は阪神・淡路大震災後に行なわれた「ジェンダー視点からみた阪神・淡路大震災後の家族・労働・家事分担の実態」(日本家政学会誌 Vol.49 No.2 1998 永藤・井上・水島・佐々木・清瀬・朴木)が端緒である。

東日本大震災後に行なわれたジェンダー視点による震災関連の研究は必ずしも阪神・淡路大震災を対象とした研究と関連付けられておらず、被災(者)状況についての問題指摘や考察は個別的なものがほとんどであった。

(2) 阪神・淡路大震災を対象とした、ジェンダー視点による被災(者)状況に関する研究は「復興に向けての多様性確保」の必要性を示唆していた。したがって、ジェンダー視点だけでなく、エスニシティ、多世代共生など被災者の多様性に配慮した実情分析研究が必要であった。

(3) 震災後の生活実情についてジェンダー視点からの問題指摘及び提言はなされつつあったが、被災者をエンパワメントするための支援方策を実践的に検証する研究は僅少であり、被災地・被災者の実情を踏まえた実践的研究が要請されていた。

2. 研究の目的

(1) 岩手県大船渡市(赤崎地区)を定点として、ジェンダー、エスニシティ、エイジズムなどの要因により地域の中で周辺化されている人々の生活状況を定点観察し、問題状況を明らかにする。

(2) アクションリサーチにより、周辺化された人々が震災復興の街づくり活動の中で「周辺」から「中心」へと向かう過程や支援方策を検討する。個人のエンパワメント、地域の意思決定構造の変化の有無やその状況を調査検討する。

(3) 調査結果を阪神・淡路大震災後の経験と重ね合わせて考察し、被災者支援の方法や災害に強いコミュニティづくりの方策を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 対象地域の生活実情調査(質問紙調査)を実施する。調査結果をタウンミーティングにより当該地域の人々に公開し、意見交換する。

(2) ジェンダー問題を抱えた人、外国人、意思決定過程で軽視されがちな若年者などをマイノリティとみなして、これらの人々にディープヒアリングする。

(3) 各種調査結果を基にした復興のためのタウンミーティングを実施し、阪神・淡路大震災時の経験と比較しつつ今後の減災方策を考察する。

4. 研究成果

(1) 阪神・淡路大震災を都市型震災、東日

本大震災(岩手県大船渡市沿岸部)を非都市型震災として措置すると、双方にジェンダー問題が存在していることが明らかになった。

(2) 阪神・淡路大震災では震災後に性別役割分業がより強固になり、女性が労働の場からの退去を余儀なくされた。東日本大震災の津波被災地区では震災後の避難所運営、被災者への支援方法、復興のための意思決定過程において性別役割分業が強固に現れた。

(3) 震災復興過程において、被災者の自主性、自発性を尊重した街づくりのための意思決定を目指して、ワークショップや被災者主催の実践活動を積み重ねた。その経過を参与観察(アクションリサーチ)した結果、若者、女性の参加はあるものの男性長老による「場の支配」が根強く存在することが分かった。

(4) 外国人については、今回研究では「フィリピン人の花嫁」たちと出会うことが出来た。震災前は婚家に遠慮して、同胞と集うことが難しく、また子どもの世話のため宗教行事への参加(日曜日の教会ミサ)もままならなかったが、震災支援を契機に当事者が集まりをもてるようになった。セルフヘルプグループを生み出す実践とみなすこともできる。

(5) 被災者のエンパワメントとして、少数グループによる「ものづくりのサークル」や「おしゃべり会」が効果的であることが分かった。これらの小人数グループへの参加者は圧倒的に女性が多く、男性は参加しにくい事情があった。性別役割分業はエンパワメントの方法にも色濃く反映していることが考察できた。

(6) 本研究が対象とする地域では、復興過程での意思決定は「一家の主人」の地位をもつ男性が行なうことが一般化している。その男性の意思決定は「家族の総意」であり、既婚者の女性は「夫に(意見として)言わせる」ことを「通常の方法」とみなしている。このような意思決定の「やり方」についての直接批判は、当事者のエンパワメントという視点からは必ずしもプラスにはならないことが被災地での地元支援者へのヒアリングでも確認できた。したがって、近代的発想による「個の自立・尊厳」を趣旨とする視点から行なわれる批判的な問題指摘は被災当事者のエンパワメントにはつながりにくい。

(7) 復興過程では男性より女性の方が早く活力を取り戻すことが観察された。男性はその土地で生まれ育った人がほとんどであり、女性は「嫁入り」してその土地の住民になった人がほとんどであるためと推察された。「ふるさと」の復興だけではなく、「ふるさと」とは何か、という問題を新たに措置する必要がある。

(8) 都市型震災においても、非都市型震災においても、日頃に潜在しているジェンダー問題(性別役割分業の体制と意識)は震災により顕在化する。しかし、震災復興の過程ではジェンダー平等化を目指した性別役割分業への直接批判ではなく、一人ひとりのエン

パワメント方策の積み重ねが重要と考察する。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

朴木佳緒留、岡田順子

震災が女性労働にもたらすもの、女性労働研究、査読有、59巻、2015、66-81

Ronny Alexander

Earthquake Survivor Support Activities, Pacific Asia Inquiry 査読有、Vol.6 No.1, 2015, 85-96

松岡広路

いのちの持続性と福祉教育・ボランティア学習、日本福祉教育・ボランティア学習学会紀要、査読有、Vol.24、2014、6-16

曾我千春・井口克郎・田中純一

『住み続ける権利』を考える、金沢星稜大学総合研究所『年報』査読無、34巻、2014、21-24

[学会発表](計14件)

Ronny Alexander, "Feeling Unsafe", International Studies Association Annual Conference, 2017.2.23, Baltimore(USA)

ロニー・アレキサンダー、つなみって、なに色?、第6回災害時の要援護者に対する支援セミナー、2017.2.12、神戸大学(兵庫県)

Tomoko Nakahara, Disaster and Gender, Kobe University Academic Research and Education Forum, 2016.12.21, Gadjah Mada University, Jakarta (Indonesia)

中原朝子、多様性を受容できる震災復興をめざして、神戸大学都市安全研究センターRCUSSオープンゼミナール、2016.12.17、神戸市役所危機管理センター(兵庫県)

井口克郎、赤崎の未来を創るためのアンケート第2弾結果(速報)報告、赤崎復興隊のつどい、2016.10.10、大船渡市赤崎地区公民館(岩手県)

岡田順子、坂本千代、中原朝子、Resilience for All、2015年度ユネスコチェア準備ワークショップ、2016.3.23、神戸大学(兵庫県)

ロニー・アレキサンダー、災害支援を考える、UNESCO Education for All Seminar、2015.12.9、高雄海洋科技大学、高雄市(台湾)

Ronny Alexander, Popoki Friendship Story Project Activities in Otsuchi-cho, JICA Knowledge Co-Creation Program on Comprehensive Disaster Management in the African Region gender and Disaster in Japan, 2015.10.8、神戸大学(兵庫県)

ロニー・アレキサンダー、Disaster Preparedness as Peace Education?、「平和教育者ベティ・リアドンの平和教育を考える」研究集会、2015.10.3、同志社大学(京

都府)

Ronny Alexander, Anna M. Agathangelou, Disjunctions of biotechnology and Global Governance,

International Studies Association Annual Convention 2015, 2015.2.18, New Orleans (USA)

朴木佳緒留、二つの大震災からの教訓、神戸大学男女共同参画推進室「国際ワークショップ」、2014.12.17、神戸大学(兵庫県)

井口克郎、災害と『住み続ける権利』、日本科学者会議兵庫支部市民フォーラム、2014.12.10、神戸市勤労会館(神戸市)

松岡広路、大船渡・被災住民のエンパワメント、岩手大学・神戸大学連携フォーラム 2014、2014.8.3、岩手大学(岩手県)

朴木佳緒留、阪神・淡路大震災後の調査経験について、女性労働問題研究会、2014.5.11、東京都南部労政会館(東京)

[図書](計1件)

松岡広路・松橋善樹・鈴木誠、学文社、社会教育の基礎、2015、220

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

朴木佳緒留(HONOKI Kaoru)

神戸大学・人間発達環境学研究科・名誉教授

研究者番号: 60106010

(2) 研究分担者

岡田順子(OKADA Junko)

神戸大学・海事科学研究科・准教授

研究者番号: 00213942

松岡広路 (MATUOKA Koji)
神戸大学・人間発達環境学研究科・教授
研究者番号：10283847

井口 克郎 (INOKUCHI Katurō)
神戸大学・人間発達環境学研究科・講師
研究者番号：10572480

ロニー・アレキサンダー
(Ronni Alexander)
神戸大学・国際協力研究科・教授
研究者番号：40221006

中原朝子 (NAKAHARA Tomoko)
神戸大学・男女共同参画推進室・特命助教
研究者番号：50624649

坂本千代 (SAKAMOTO Chiyo)
神戸大学・国際文化学研究科・教授
研究者番号：80170611

(3)連携研究者
()

研究者番号：

(4)研究協力者
()